

#編集後記 オリンピックの顔と顔 (^_^)

冬季スポーツの祭典といえば、北京オリンピック。

夢の舞台で繰り広げられる、様々なドラマが心を打ちました。

圧倒的な金メダル候補だった女子フィギュアスケートのロシアのワリエワ選手のフリーの演技。転倒を重ね、演技後の悲痛な表情の彼女を見て、ああこの子はまだ15歳の女の子だったのだと、なんとも切ない気持ちになった人は多かったのではないのでしょうか。(-_-)

そんな枚挙にいとまがないほどのドラマがあった今回のオリンピックでしたが、なかでも女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」の躍進には心が躍りました。藤澤五月選手が決勝の前に、「**一つのショット、一つのコミュニケーションを大事にしたい**」とコメントしていたように、カーリングはコミュニケーションスポーツと言われる競技だそうです。

「ロコ・ソラーレ」は、元オリンピック選手の本橋麻里さんがふるさと北海道常呂町に戻って作ったチーム。チーム作りで本橋さんが考えたのは、「**まずは一人一人がしっかり考えて意見を持って、それがチームと違う意見であっても、チームの為に思って言っている意見であれば、それはそれでよしとしよう。十人十色いていい。**」(NHK「インタビュー ここから」より)

本橋さんは、「**自分の損得が優先すると何も言えず終わってしまう**」(同)ことを危惧したと言います。なるほど、競技中の4人はよく声を出します。お互いが向き合っ、感情を表に出して、笑顔で、時に涙で素直な気持ちを伝え合っているように映ります。

コミュニケーションで強くなったロコ・ソラーレは、本橋麻里さんが思い描いたチームになったようです。

令和元年の厚生労働白書では、仕事上の人間関係、労働時間の変化と「働きやすさ」を調査した結果が掲載されています。それによると、人間関係が良くなった職場と労働時間が短くなった職場は、ともに働きやすくなったという結果が出ています。注目すべきは、**人間関係が悪くなっている職場においては、労働時間が短くなくても働きにくくなったという声が多いこと**、そして**人間関係が良くなった職場においては労働時間が増えても働きやすくなったと感じている声が多い**というデータです。

「**人間の悩みはすべて対人関係の悩みである**」とはアドラーの言葉ですが、逆に言うと**人間関係が良ければ、乗り越えられる苦勞もある**ということ。

最近、「**多様な働き方**」という言葉が巷にあふれていますが、それは本質的には「働きやすい」職場、仕事ということですね。事情に合わせたテレワークや時短勤務を考えることも大事ですが、それ以上に大切なのは上司と部下、そして同僚同士が顔と顔を向き合わせるコミュニケーションの在り方ではないのでしょうか。

オリンピックとは比べようもありませんが、僕が15歳だった中学3年生の運動会の時のこと。僕は学年リレーの選手に選ばれていたのですが、あいにくその運動会当日は朝から曇天。案の上途中で雨が降り出して、3年生のリレーだけやってそれで途中終了とすると発表されました。よーいドンでスタートしたものの、第2走者の僕がコーナーを回ったところで、すってんコロリン!(*_*)

そんな僕のせいでチームはビリだったのですが、誰も僕を責めることはありませんでした。一人の女子(!)が「**柿野、滑った時パンツ見えとった!**」と大声で僕をいじってどっと笑いが起きたのです。みんなが明るく笑い飛ばしてくれる中、僕も「アホカー」と言いながら一緒になって笑った覚えがあります。そんなアホな女子とクラスメートの明るさに僕は救われました。

屈託のない笑顔は、その場の雰囲気をも明るくし、周りを元気にしてくれます。日本ではマイナースポーツともいえるカーリングが、オリンピックで人気を集めたのは、強かったことに加えて、笑顔で声をかけあう彼女たちが素敵だったからに違いありません。(^o^)/

アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com



ダブルテイクアウト
って、ハンバーガー屋
さんの話?
そだねー



柿野一、パンツ
まる見え~(^.^)



どうせなら
勝負パンツに
してたらよかった